

チャレンジ農業！次のステージへ！

# 営農情報ならは

檜葉町産業振興課（令和2年9月号）

檜葉町の営農再開状況や農業者等の  
声を定期的にお届けします！

## 感謝の気持ちを込めて「檜葉トマト」収穫スタート！

檜葉町に新たに法人設立した株式会社ナラハプラントファクトリーでは、7月20日から本格的な収穫が始まり、連日、収穫と選別作業等が行われ、来年の5月頃まで続く予定です。8月の急激な高温の影響も受けましたが全体的に、生育は順調です。



中玉トマトの  
「フルティカ」

厳選された良質なトマトは「サンシャイントマト檜葉」として市場に出荷され、道の駅や近隣スーパー等で販売されているほか、当施設内で直接販売も行っています。青木代表は「再建された施設に是非、お越しいただき、瑞々しく新鮮なトマトを堪能して欲しい。そして、ナラハプラントファクトリーと一緒に働いてくれる仲間を募集しています。」とおっしゃっていました。

株式会社ナラハプラントファクトリー 代表取締役 青木浩一  
福島県双葉郡檜葉町大字上繁岡字中原17番地の2  
TEL:0240-23-5903 FAX:0240-23-5904  
E-mail:naraha\_pf.first@outlook.com

## 甘藷の一大産地化に向けた取組み

檜葉町では、営農再開の新たな作物として平成29年から甘藷（かんしょ）の栽培が行われています。町は、「甘藷の一大産地化」に向けて甘藷栽培を行う農業者の作付支援等に取り組みます。

具体的には、①甘藷栽培農家の増加と栽培農地拡大に向けたマッチングサポート体制の構築、②栽培技術の支援体制の構築（甘藷アドバイザー等による定期的なほ場巡回と栽培指導会の実施、③作付け奨励金や甘藷用農業機械・パイプハウス等導入補助など町独自の助成事業等の創設、④甘藷生産組合を組織化し、組合員同士の共同作業（作業シェアリング）や「ならは応援団」と協同した農業応援制度の構築、⑤担い手となる新規就農者の確保と定住促進のため、空き家バンク制度に加えて、町内賃貸住宅家賃補助や住宅取得補助の創設等です。



甘藷の貯蔵施設内に配備された洗浄機材



- ①敷地面積：11,968㎡
  - ②延床面積：4,688㎡
  - ③1階床面積：3,213㎡
  - ④2階床面積：304㎡
  - ⑤甘藷貯蔵庫：315t×4室  
=1,260t
  - ⑥キュアリング室：48t×4  
室=192t
- ※「キュアリング」とは、温度32度、湿度90%以上で4日間寝かせた後、温度13度で放冷すること

## 甘藷の貯蔵施設と機械倉庫が完成しました！

檜葉町は、福島再生加速化交付金を活用し前原浜城地区に国内最大規模の甘藷貯蔵施設を整備しました。甘藷栽培については、平成29年に1.5haの実証栽培を取組み、去年は30ha、本年は42haと着実に栽培面積が拡大しており、来年は目標とする50haを通過点としてさらなる面積の拡大を目指しています。現在、1法人2農業者が甘藷栽培に取り組んでいます。



貯蔵施設



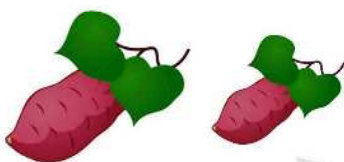
機械倉庫



＜事業の目的＞檜葉町では、主力作物の水稻に加えて新たな営農モデルを確立し、強い農業経営体を育成することを目標に掲げています。新たな作物として栽培・出荷体制が機械化されており省力化を図ることが可能な甘藷栽培を導入することで畑作での大規模営農モデルの確立を図ることとしました。

### ＜お問い合わせ＞

福島しろはとファーム 事務局（甘藷貯蔵施設内）  
福島県双葉郡檜葉町大字前原字浜城 | 番地  
TEL:0240-23-4172 FAX:0240-23-4173



## 「檜葉町畜産クラスター協議会」研修会開催

7月31日、(株)ビーフジャパン・古山牧場（いわき市）において、檜葉町畜産クラスター協議会の会員を対象に研修会を開催しました。

古山牧場は、平成28年1月から同市三和地区において繁殖経営を再開し、稲作農家との耕畜連携による飼料確保と堆肥の有効活用を実現しています。参加者は、同席した古山代表から畜産クラスター事業で建設中の育成舎や敷地内の各施設の説明を受け、飼養管理体制や子牛の育成手法、施設整備等について活発な情報交換を行いました。

檜葉町における耕畜連携や堆肥のリサイクル及び堆肥の保管施設（ストックヤード）の必要性について話し合う貴重な機会となりました。



古山夫妻と渡辺副会長



古山代表から説明を受ける参加者

### 「畜産クラスター協議会」とは？

畜産農家と地域の畜産関係者（支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等）がブドウの房（クラスター）のように、一体的に結集することで、畜産の収益性を地域全体で、向上させるための取組みです。

檜葉町は、令和元年12月10日に「檜葉町畜産クラスター協議会」を設立しました。



## 想い描いた夢を実現！（渡辺秀幸さん：山田岡地区）

7月27日、檜葉町山田岡地区の渡辺秀幸（しゅうこう）さんから営農再開までの経緯や檜葉町における畜産の将来像等についてお話を伺いました。秀幸さんは「想い描いた夢を叶えるまで約5年かかったが町の復興と和牛繁殖再開の夢を実現できた。檜葉町の畜産振興策と国や県の支援があったから達成できたこと。今後は、町内で畜産に取り組む仲間が増えることと獣医師不在が解消されること」を熱望していました。当日は、檜葉町や富岡町の畜産担当者のほか農水省派遣職員が同席し、秀幸さんから畜舎や堆肥舎等の各施設の整備状況（支援事業活用事例）や檜葉町はじめ双葉地区の畜産振興と耕畜連携の将来像等についてもお話を伺うことができました。



施設の整備状況や工夫した点等について熱心に説明する秀幸さん



スマホで牛舎内の様子等を確認！

### < 檜葉町の農業者数及び飼養頭数（令和2年8月末日現在） >

現在、1法人4農業者が259頭の牛を飼養中。

< 繁殖 > 4農業者129頭（親79頭+子47頭+肥育3頭）

< 酪農 > 1法人130頭（親84頭+子46頭）



## 檜葉町は「耕畜連携」で循環型農業を目指します！

檜葉町は、安定した品質の堆肥の供給及び作業の効率化により、排せつ物処理量の増加を図り、震災前と同等以上の飼養頭数に回復することで本格的な営農再開を目指すことを目的に、平成30年3月「家畜排せつ物の利活用施設」を整備しました。施設の規模については、将来的な飼養頭数を想定し整備しましたが営農再開が段階的に進んだことにより、当初計画を上回る頭数になっています。また、排せつ物の水分調整のためにオガ粉や通気性改善のためにモミガラを副資材として添加して発酵を促進させています。



産業振興課は、畜産経営者から排せつ物の活用状況等を把握し、営農再開の進展により当初想定していた飼養頭数を上回る現状や新規就農予定者の参入等、近い将来、町内の飼養頭数が増える可能性があること等から堆肥の保管施設（ストックヤード）について討議を深めており、今後は、耕種農業者を訪問し、諸課題等の把握と堆肥の需要調査を行う予定です。

## 水稻の生育状況を確認！適期刈取りを行いましょ！



間断・かん水を行い根の発育を促進

7月下旬、檜葉町下繁岡地区の基盤整備を実施した水田において水稻の生育状況の確認を行いました。全体的に良好な生育で順調に推移しています。一部、生育遅れ等を解消するために発根を促すための対策を実施しました。なお、刈取りは平均的な株から中位の穂を選び籾全体の85~90%が黄化した時期が刈取りの適期です。

## 檜葉町の新型コロナウイルス対策事業（産業振興課）

檜葉町は、新型コロナ対策事業として以下の取組みを実施しています。

### 【インドア花いっぱい支援事業】

町内の花き生産者から町が花きを買い取り、町内の公共施設や教育機関・事業者等180カ所に提供し、花き生産者を支援しています。

### 【ふるさとを遠くで見守る支援事業】

親元を離れて暮らす学生等へ町内産米を送付し、檜葉の若い世代の皆さんをふるさとから応援します。（1回目6~7月、2回目10月予定）

### 【地元産材活用支援事業】

道の駅ならば物産館で来館者へ町内産農産物を配布し、消費拡大を図ることで生産農家を支援しています。（物産館は6月19日に再オープン）

### 【鳥獣害対策事業】

感染拡大防止対策を踏まえながら捕獲活動に必要な経費を支援し、鳥獣害対策の促進を図ります。



アルストロメリア

## 檜葉町の鳥獣被害防止対策～イノシシの捕獲頭数～

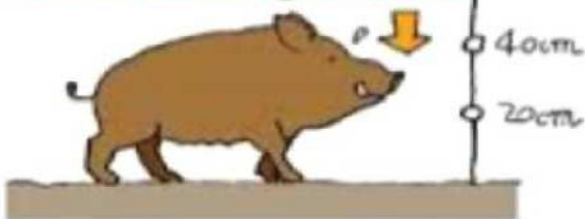
檜葉町の鳥獣被害は、営農再開の進展等により農地に電気柵を設置し対策していることから農作物等への被害は減少傾向となっています。しかし、森林と隣接する農地では、イノシシによる畦畔の掘起し等が確認できるほか、ハクビシンやアラグマ、サル等の目撃情報も報告されています。有害鳥獣捕獲隊により捕獲活動が実施され、今年は約140頭捕獲しています。捕獲活動と併せて地域全体で取り組める活動として「集落の環境を整備する」ことも重要です。具体的には、①家庭菜園や農地周辺に野菜の残渣等エサになるようなものを捨てない。②収穫予定のない果実等は早めに撤去する。③山際や空き地の藪を刈り払う等です。



電気柵をチェックする猪狩一さん

また、農地への進入防止対策として電気柵の設置にも取り組んでいますが実際の現場では、除草作業等の効率化のため地面側の電気柵を所定より高くしている場合や用・排水路がイノシシの侵入路になっていること等もあるため、設置した後も定期的に点検を行うことも必要です。電気柵を設置した場合は、見やすい場所に適当な間隔で危険表示板を設置する等、感電防止対策を行いましょう。

鼻先が感電しやすいため電気柵は、20cmを目安に設置することが有効



### 【捕獲実績】

H26年 95頭、H27年 78頭

H28年169頭、H29年360頭

H30年742頭、R元年575頭

発行日 令和2年9月  
発行 福島県檜葉町  
編集 檜葉町産業振興課  
〒979-0696

福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂5-6

TEL: 0240-23-6104 FAX: 0240-25-1234

チャレンジ農業！次のステージへ！